



# リゼミ通信

## 2024年5月号

www.rizemi.jp info@rizemi.jp

立心ゼミナール  
 東三条本校 0256-47-6500  
 三条高校前予備校 0256-33-1313  
 つばめ吉田校 0256-77-8880

### 新たなトレンド？三条市では定期テストが年3回の中学が増えました。

こんにちは、東三条本校の清野です。

4月から新生活が始まった中・高1年生も新しい学校にだいぶ慣れたようでクラスの様子や入った部活について話を聞かせてくれました。例年、GWが終わると授業進度が早くなり、すぐに定期テスト(考査)を迎えるので今の内に苦手箇所の補強や学校ワークをやっておこう!と話しています。

しかし、今年度は中学校によって注意が必要です。現時点では三条市内において、二中・三中・栄中は定期テストが年3回実施になっています。(多くの中学校は年4回実施)これらの中学校では1学期の定期テスト範囲が広くなり、実施時期も遅く7月上旬頃になります。定期テストを年3回にすることが今後主流になっていくかは判明していませんが、試験範囲や学習計画に注意を払いつつ、学校ごとに合わせたテスト対策を行っていきます。

### 変わる英検と今後の注意点について

4月中に英検案内を配布して第1回の受付が終了しました。今年度のリゼミでは、準会場として3回の英検を実施いたします。【5月26日(日)、10月6日(日)、1月26日(日)】

英検は大学受験を有利に進めるため、2級合格を学年に関わらず早めに目指すべきです。(難関私立大学の場合は準1級)昨年、今年、来年と英検の形式やシステムが変更になります。知っておくべき内容も多いため、ご紹介いたします。(清野)

#### 1. 英検4級・5級チャレンジキャンペーン(2023年度~)

昨年度からリゼミを含む準会場で英検4級・5級を受検した場合、もし不合格になっても次回の検定料が無料になるキャンペーンが継続しています。小学生が初めて英検を受ける場合、検定対策に不慣れなため不安もありますが、精神的にも経済的にも再チャレンジのハードルが低くなるため、目標をもって学習を継続する一助となります。



#### 2. 英検問題形式リニューアル(2024年度~)

3級以上の級は今年度の第1回(5月)から一部、新たな形式での出題を加えてリニューアルします。知識や技能の習得だけでなく、コミュニケーションや状況等に応じた英語の運用ができるかを求められ、思考力、判断力、表現力等も測定されます。

### 【英検リニューアル内容】

級	一次試験			二次試験	
	Reading	Writing	試験時間	Listening	Speaking
1級	41問→35問 ・大問1:短文の語句空所補充 →3問削除(単語問題) ・大問3:長文の内容一致選択 →3問削除(設問No. 32-34)		変更なし (100分)	変更なし	変更なし
準1級	41問→31問 ・大問1:短文の語句空所補充 →7問削除(単語問題) ・大問3:長文の内容一致選択 →3問削除(設問No. 32-34)	英作文問題の出題を <b>1題から2題に増加</b> 既存の「意見論述」の出題に加え、 <b>「要約」問題を出題</b>	変更なし (90分)	変更なし	受験者自身の意見を問う質問(No. 4)に <b>話題導入文を追加</b>
2級	38問→31問 ・大問1:短文の語句空所補充 →3問削除(文法問題など) ・大問3B:長文の内容一致選択 →4問削除(設問No. 30-33)	特にライティングが大きく変わるため、注意が必要です。	変更なし (85分)	変更なし	変更なし
準2級	37問→29問 ・大問1:短文の語句空所補充 →5問削除(熟語・文法問題など) ・大問3B:長文の語句空所補充 →3問削除(設問No. 28-30)	英作文問題の出題を <b>1題から2題に増加</b> 既存の「意見論述」の出題に加え、 <b>「Eメール」問題を出題</b>	時間延長 (75→80分)	変更なし	変更なし
3級	変更なし		時間延長 (50→65分)	変更なし	変更なし

英検リニューアルは3級以上が対象となります。準2級以上ではリーディングの文法問題と長文問題が2割程度削減されます。

また、3級以上でライティング問題が増加します。(英作文の追加、要約、Eメール)

これらの改訂は4技能をバランスよく学ぶためのもので、難易度が高くなるわけではありません。しかし、最初は過去問も少なく傾向も変わるため、合格に向けて十分な準備が必要になるといえます。

### 3. 新設級「準2級プラス」を準2級と2級の間に導入(2025年度~)

高校1年生レベルである準2級と、高校卒業レベルである2級のギャップを埋めることで身近な目標を設定できます。準2級プラスが設立されることによる、他の既存級の設問難易度の変化や、他の級に合格したことの価値が変わることはありません。

CEFR	英検 CSE スコア	実用英語技能検定(英検) 各級の合格基準スコア				
Proficient User 熟練した言語使用者	C2	4000				
	C1	3299				
Independent User 自立した言語使用者	B2	2599				
	B1	1950				
Basic User 基礎段階の言語使用者	A2	1499				
	A1	1150				

準2級プラスは準2級と2級のちょうど中間の合格基準になります。高校生卒業までに2級か準1級を目指すことに変わりはないため、特に注意すべきことはないと考えられます。

### 少子化で大学全入の時代がやってくる？その後の課題とは？

『今後、急速に進む少子化により大学受験がどのような影響を受けるか?』という興味深いデータがありました。2024年度の18歳人口は約106万人に対して、2023年度の出生数が約75万人となっています。この75万人という数字は18年後(2042年度)の18歳人口です。

一方、2023年度の大学進学率は57.7%となっており、この数字を18歳人口に当てはめると、2023年度の受験生は61.2万人となります。そして仮に大学進学率の57.7%が将来的にも変わらないと仮定すると、



2042年度の受験生は43.3万人まで減少します。つまり、18年後の受験生は18万人減となり3割近く減ることになります。

さて、全国の主な私立大学群である関東の『早慶上理、GMARCH、日東駒専、大東亜帝国、関西の関関同立、産近甲龍、愛知の南愛名中』の有名30私大の定員を合計すると15.6万人になります。

つまり、18年後にはこれらの大学の定員分以上の受験生がいなくなることを意味しています。受験生が減れば、上位大学であっても競争率は低下します。その結果、各大学が定員を減らせば競争率に変化は無いのですが、経営上の問題からも定員を減らす可能性は低いといえます。

競争率の低下によって上位大学が今よりも合格しやすくなれば、例えばこれまで日東駒専を志望していた受験生がGMARCHを目指し、大東亜帝国を志望していた生徒が日東駒専を目指せるようになります。

このように上位大学が入りやすくなることから受験生がより上位の大学を受ける「玉突き現象」が発生した場合、18年後には現時点で偏差値45以上の大学には全員が入れる計算になります。偏差値45以下の大学に希望する全員が入れる『全入受験』になるだけでなく、受験生自体がいなくなってしまう可能性もあります。その結果、多くの大学では大学存続の危機を迎えることになります。

大学全入を目前にして、これからの大学進学では偏差値やネームバリュー（これらも重要ですが）より、『自分はなぜその大学に行きたいのか？』『その大学で何を学びたいのか？』『その大学を出てから社会で何をやるのか？』をこれまで以上に考えて進路選択をするべき時代がやってきます。進路相談の中では、様々な面からのアドバイスをしつつ、やる気を引き出す指導をしていきます！

話は変わりますが、東洋大学では2025年度入試から『学校推薦入試基礎学力テスト型』という併願可能な学校推薦型選抜が始まります。学校長の推薦があれば、既卒者も含めて出願可能な学校推薦入試で、他大学や東洋大学の一般選抜との併願が可能です。

試験科目は2教科2科目（英語・国語または英語・数学）で、英語では英語外部試験のスコアも利用できます。

年内に2教科入試で東洋大の併願合格をキープできるため、2月に滑り止め入試対策をする必要が無い状態で国公立大や上位私大を受験できることになります。「頑張って国公立大やGMARCHに合格」を狙う受験生は多いため、活用できる生徒も多くなりそうです。将来、減少する受験生を囲い込むための新しい入試という見方もできますが、今後は他の大学でも選抜方式が多様化していくことで受験生の負担が少しでも軽くなってほしいと思います。（清野）

早慶上理(そうけいじょうり)=早稲田・慶應義塾・上智・東京理科大  
GMARCH(ジーマーチ)=学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政大  
日東駒専(にっとうこません)=日本・東洋・駒澤・専修大  
大東亜帝国(だいてうあていこく)=大東文化・東海・亜細亜・帝京・国士舘大  
関関同立(かんかんどうりつ)=関西・関西学院・同志社・立命館大  
産近甲龍(さんきんこうりゅう)=京都産業・近畿・甲南・龍谷大  
南愛名中(なんあいめいちゅう)=南山・愛知・中京・名城大

## 全国の様々な学習塾はどんな考えで指導をしているのか？

こんにちは、塾長の太田です。塾業界は様々な研修会が全国で開催されます。私もいくつかの塾団体に所属しており、受験繁忙期を除き、1~2か月に1回くらいで研修会に参加しております。

先日は東京都と大分県で研修会があり、東京では主に大学の推薦入試に関する内容を、大分県では塾業界では有名な教育系YouTuberからYouTubeなどの動画の活用方法について学びました。研修会自体も非常に勉強になるのですが、研修会の一番の魅力は全国から集まる塾長との生の情報交換です。塾は生徒数1000名を超える塾から十数名の個人塾、「河合塾マナビス」や「武田塾」など大手予備校を運営している塾など様々です。今回は全国の塾に関する内容をお伝えします。

現在は高校を卒業すると半数以上が大学に進学します。新潟県でも専門学校への進学率が減り、大学への進学率が増加しました。大学への進学率が増加している傾向はいろいろな要因はありますが、その1つに「大卒の方が就職に有利」になる点です。多くの学習塾は将来の進路希望を叶えるために、それぞれの自塾の特徴を生かした教育サービスを提供しています。

東京都で中学受験を専門にしている塾長は、中学受験を希望する保護者の考えは「いかに我が子が有利に職業選択をできるのか」という点に尽きるそうです。もちろん都心という地域性もあり、有名私立中高一貫校が多数あるということも中学受験に拍車をかけているようです。ちなみにその中学受験専門塾では、ゴールデンウィークも朝の8時半から夜まで普通に塾があるそうです。私が「GWも小学生が朝から晩まで勉強するのですか？」と尋ねると、その塾長は「太田先生、中学受験で合格するためには当たり前だよ。太田先生の考えは甘い！」と冗談半分で一喝されました（笑）。

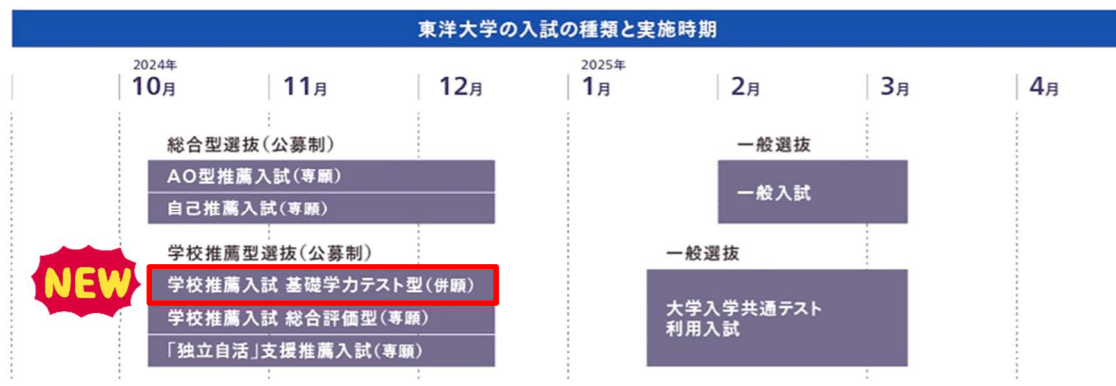
次に大阪で主に私立中高一貫校生をメインに指導している塾長の話です。京都大学や大阪大学などの難関国立大を目指す生徒層は大手進学塾に行ってしまうため、その塾では地域で2~3番手の中高一貫校の生徒を対象とした塾運営をして、多くの生徒が通ってくれているようです。そこでもなぜ保護者は中学受験を選択するのかというと、やはり大学進学を考え、子どもの将来を少しでも有利に進ませたいということが大きな理由になっているようです。中高一貫校は特に数学と理科の進度が一般的な公立校よりも早く進むことや、高校受験がないので中学生のうち高校内容も学習し、高3時点では全ての指導内容が終わるので、大学受験において有利なカリキュラムになっています。

一昔でもあれば「それって東京や大阪などの都会の話だよ」で片づけられたと思います。しかし、今では大学受験が当たり前の時代であり、大学受験は全国レベルの競争なので他人事ではいけません。愛媛県の地方にある個人塾の塾長も同じ考えでした。その塾長が運営する塾がある地域では、高校そのものが全員入学になっており、その地域の一番校でも定員割れとなっています。その塾長の話では、他の地方の10年先の様子を表しているとのこと。そのような地域では中学生の通塾は少なく、主に高校生が通っています。そして、地元の企業または公務員を目指すなら愛媛大学（国立大）、そうでなければ関関同立（関西の有名私立大）かMARCH（首都圏の有名私立大）への進学を勧めているそうです。この考え方もやはり子どもの将来を考えてのことです。地方の保護者は学費が安価な国公立大希望がほとんどですが、その塾長は子どもの将来を考えるのであれば国公立大だけでなく、お金がかかっても有名私立大への進学を提案するそうです。

子どもの進路に正解も不正解もありませんが、子どもの将来の選択肢を広げると言う意味で小中高の学力は重要になります。現在の学生の就職活動は売り手市場で学生にとっては良い状況ですが、いつまでもこの状況が続くとは限りません。以前の「就職氷河期」が来るかもしれません。いずれにせよ、どんな社会でも生きぬく術を身に付けた人が将来も活躍できると考えています。



大分県の塾は掲示物から塾の活気が伝わってきました。



※出願期間・試験日等の入試スケジュールについては「入学試験要項」を確認してください。  
<https://www.toyo.ac.jp/nyushi/admission/2025new/>